



木次っ子の四季

～互いに互いの成長を喜び合う学校～

校長:伊藤彰彦



2月は逃げるといいますが、2月もあと1週間ほどです。あっという間です。

子ども達は、6年生を送る会を成功させようと、5年生が中心となって頑張っている活動しています。お世話になった6年生とは、あと1か月一緒にいられるだけとなりました。さびしい気はしますが、笑顔で送り出せるように、残りの時間を有意義に過ごしたいものです。

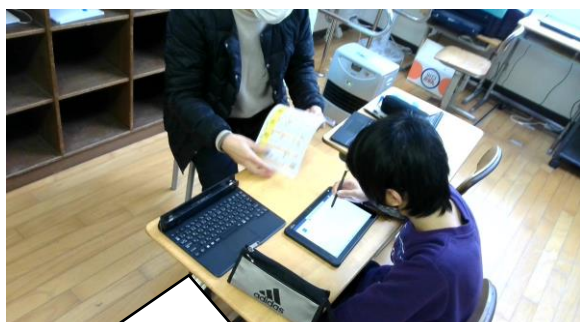
縄跳び大会

1月28日は、縄跳び大会でした。新型コロナウイルスが島根県でも流行していることから、各学年で記録をとることになりました。子ども達は、体育の時間に30秒間早とびを練習していました。ボクシングの選手のように、早く前跳びを行うものです。ペアになって、相方の人が数えて記録を計りました。多い人は100回くらい跳びます。数えるほうも大変ですが、協力をして頑張りました。



タブレットの活用

タブレットが貸与されて、1か月が過ぎました。全学級が活用しています。先生たちもタブレットで宿題を出したり、授業中に資料を配ったり、大いに活用しています。その様子を紹介します。



漢字の練習に使っています。「とめ」や「はらい」に気を付けないと認識してくれません。



理科の観察シートには写真を張り付けることができます。



教えあって使っています。こうした姿が増えました。



協働学習です。意見を出し合い、一つの成果物を作り上げています。

このように、児童は、タブレットのよさを実感しながら使っています。我々教職員も、日々情報交換しながら、使い方を研究して取り組んでいます。

一日入学

2月9日は、一日入学の日でした。しかしながら、新1年生には新型コロナウイルス感染症防止対策のため、来校を見合わせてもらいました。例年、1年生は新1年生にお手紙を渡したり、小学校の様子を伝えたりする交流活動を行っていましたが、今年度はできませんでした。1年生にとっては、成長の姿を披露する機会でもある行事ですので、残念でした。入学式には歓迎の気持ちを伝えられるといいなと思います。

保護者の皆様には、入学に向けての準備をお願いしたり、木次小学校のきまりや学校のくらしについて話したりしました。たくさんのお話を聞きましたが、保護者の皆様は熱心に聞いてくださいました。しっかりと準備をしていただけたことと思います。

入学式には、新1年生のみんなが元気にやってきてくれることを願っています。

特別支援教育連載「かけはし」



連載を通して、特別支援教育についてお伝えをしてきました。木次小学校でも「子ども一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加するために必要な力を培うこと」を目指して、一人一人に合った学びの場を提供しています。そして、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、チームで支援を続けてきました。保護者、担任、教科等で関わる教職員、養護教諭、校長、教頭、特別支援教育コーディネーター、支援員（市から派遣）、にこにこサポートティーチャー（県から派遣）、雲南市教育委員会、医療機関や福祉機関などが連携を取り、支援を行ってきました。

年度末には、1年間の振り返りをして、来年度の指導に生かしていきます。

連載は今回で終了です。ありがとうございました。